

東日本大震災「あなたに助かってほしいから」

一般社団法人大船渡津波伝承館

館長 齊藤賢治

【講演の概要】

- 1、東日本大震災地震津波映像 13分 津波の破壊力となぜ人は犠牲になるのか。
- 2、大船渡市の立地と防潮堤及び防波堤の整備ともろさについて
- 3、津波の力とスピード、津波が押し寄せる中でどう避難し生き残るか
 - ✓心構えとは
 - ✓津波てんでんこ
- 4、津波の中、生死を分けた理由と自助
 - ✓生死を分けたのは何なのか
- 5、岩手日報社調べによる亡くなった方々の避難行動と亡くなった方々のその因
 - ✓あなたの町の避難所は大丈夫？ ハザードマップは？
 - ✓車での避難行動は？
 - ✓職場のリーダーの取るべき姿は
- 亡くなった方々の7割は!!
 - ✓逃げない人の多くの理由は
 - ✓私の叔母も逃げずに亡くなりましたが、意外な所から12月に発見
 - ✓避難したが、我が家に戻ってしまうのは何故
 - ✓避難の途中とは言うが、その実態は
- 6、震度6以上の地震は世界の10%が日本で発生している。
 - ✓地震対策は、考えておりますか
- 7、ライフラインの断ち切れた生活は
- 8、助け合いと共助
- 9、避難所生活
- 10、 ボランティアと私そして世界からの差し伸べられた暖かい手
- 11、 公助

講演は概ね映像を含め75分程度、テーマを増やしたり減らしたりは可能

【紙芝居・吉浜のおゆき】

- ・約19分
- ・対象年齢は小学4年程度から大人まで
- ・あらすじ：大船渡市の吉浜地区に伝わるお話を紙芝居用に作成したものです。

おゆきと与吉と言う夫婦が居て、子供が生まれた。幸せな日々を送っていたが、井戸水が枯れたりカラス鳴きが悪かったりと異変が有った。与吉は近いうちに津波がくると村のものと話していた。おゆきには、津波の時にはてんでんこに逃げるんだと伝えた。ある夜、与吉は風呂に入るが大きな地震に見舞われ風呂部屋の戸が開かないまま津波に流された。三日後与吉は生還した。与吉はおゆきと赤ん坊を探し当てたが死んでいた。与吉はおゆきと赤ん坊を犠牲にしてしまったと嘆く。村長は皆を境内に集め「家は山に番屋は浜へ」と宣するが反対を受けた。与吉は家とは代々安心して暮らせる場所なくてはならないと賛成する。そして、その町割りが今もなお守られ東日本大震災では犠牲者が少なかった。まさに奇跡の町と言われている。

*紙芝居は俳優そして当館理事の横道毅が読み演技する場合があります。常時は東京におりますが、都合がつけば来てもらい読みも可能。

【アニメーション・みえないわざわい】

- ・約9分
- ・対象年齢は幼稚園児から小学2、3年生まで？
- ・あらすじ：擬人化したネズミの飲食店が舞台となっている。

ネズミのお店に大きな地震が来て、お店は壊れてしまった。しかし、100人の客を受け入れなくてはならないと、別の部屋を当て込んで準備が進められた。子ネズミのシンペイは二階の部屋にいと、長老ネズミが抜け道から入って来ては、早く逃げろ海がこっちに来ると警告していった。シンペイは女将ネズミに言うが請け合ってくれない。シンペイは抜け道から丘の上に上がってみると、長老ネズミが居て海の水が引いている津波が来るぞと教えてくれた。シンペイは信じてくれない皆様を高い所に呼ぶため会場を壊し始めた。そこに津波が来て女将ネズミが流されながらも助けられ、抜け道から丘に上がり皆から分からなくて悪かったと謝ってもらい、長老ネズミからは逃げるのは勇気が居る事だとほめられる。